

## 今月のメッセージ (2012年8月)

日本銀行富山事務所長  
佐子 裕厚

幸田真音さんが来て下さいます。

富山県金融広報委員会では、年数回、著名な方をお招きして、金融経済講演会を開催しています。

今年度第1回目の講演会を9月8日(土)に開催します。今回は、テレビやラジオのコメンテーターとしても活躍されている作家の幸田真音さんをお招きします。「経済小説の“いま”を読む」と題した講演をしていただきます(13時半~15時。タワー111 3階スカイホールにて)。

幸田さんの作品の中でも私の仕事に関係が深い「日銀券」<sup>1</sup>という作品を読みました。金融市場で生きるディーラーたちの姿が生き活きと描かれているうえに、スリリングで、場面展開も早く、時間が経つのも忘れて読み耽ってしまいました。と同時に、「中央銀行は金融市場にどのように関わっていくべきなのか」という点を深く考えさせられました。

国債の大量発行と量的緩和政策の推進により、ここ12~13年ほどの間に金融市場は大きく変貌しています。公定歩合操作により金利全般を変更し得る規制金利の時代はとうに過ぎ、公開市場操作で市場金利を上下させるダイナミックなメカニズムも「ゼロ金利」下では封印せざるを得ません。「日銀券」に描かれている世界そのもので、一種の「閉そく感」が生まれています。

ただ、こうした「閉そく感」の中にあっても、中央銀行は、「市場を安定的に運営しながら、円の価値を守っていく」という使命を追求しなければなりません。それは、未知の航路を目的地に向かって懸命に進んでいく船の操舵のようにも思えるのですが、中央銀行としては逃げる訳にはいかないのです。「日銀券」は10年ほど前に書かれた小説ですが、その問いかけは今も十分に有効です。

幸田さんご自身が債券ディーラー出身ということもあってか、難解な金融用語も平易に解説されています。金融業界に無縁な方も面白くお読みになれます。

講演会では、どんなお話が聞けるのでしょうか。入場は無料です。事前申込が必要となりますが、是非、足をお運びください。

以上

---

<sup>1</sup> 「日銀券」は「日本銀行券」の略称で、お札のことです。